

輸出事業計画

※申請者名：全国農業協同組合連合会秋田県本部、品目：りんご

1. 輸出における現状と課題

＜輸出の現状＞

- ・県内の主なりんご産地は横手市、湯沢市、鹿角市。
- ・「ふじ」を中心に多様な品種（つがる、早生ふじ、シナノスイート、秋田紅あかり、王林等）を栽培。
- ・秋田県オリジナル品種「秋田紅あかり」が輸出の重点品種。極甘で香りが良く酸味が少ないのが特徴。
- ・検疫条件が比較的に緩い香港をターゲットに、平成25年から輸出開始。
- ・令和2年度の輸出実績は約24t（秋田紅あかり23.6t、サンふじ0.3t、王林・ぐんま名月0.3t）。
- ・高所得者層だけでなく中・低所得者層をターゲットとしたリーズナブルな規格等も検討。

＜輸出の課題＞

- 【生産】・担い手不足や令和2年度の雪害による生産量の減少。
- 【販売】・「秋田紅あかり」の出荷時期が春節期のみ（1月下旬まで）と短期間にとどまっている。
・継続的な取引に向けた秋田県産りんごの棚割確保のため、「秋田紅あかり」以外の品種の提案が必要。
- 【流通】・各産地の出荷場が県内に点在しており、集荷効率が悪い。

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産】①雪害からの早期復興

②スマート農業の導入推進

- ・JA秋田ふるさとで、ロボット草刈機の実演会や運搬・防除などに幅広く活用できる小型多機能ロボットのモニター試験を行い、令和5年度までにスマート農業を導入する産地を県内全域に広めていく。

③輸出用産地の拡大

- ・国内向けよりも輸出向けりんごを高く買い取っているなどのメリットを生産者に示すことにより、県内全域で「秋田紅あかり」への改植を促し、輸出用産地の拡大及び輸出用果実の確保につなげる。

【販売】①「秋田紅あかり」を長期販売

- ・春節期以降の需要に対応するため、スマートフレッシュ加工を活用した品質保持技術を導入する。

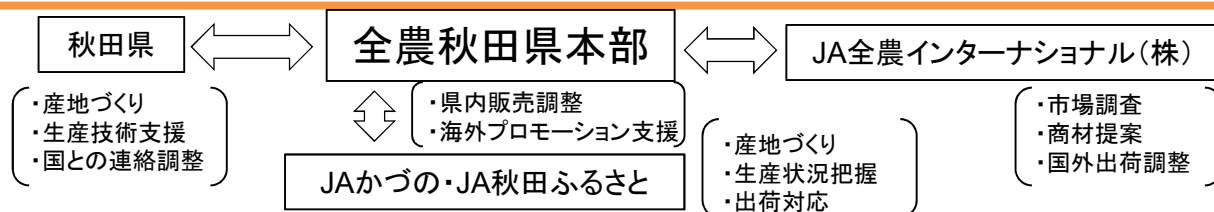
②秋田県オリジナル品種の中生種「やたか」の販売提案

- ・秋田県産りんごの継続取引につなげるため、中生種「やたか」（早生ふじ）を販売提案する。

【流通】①大口での出荷検討

- ・現地販売先及びJA全農インターナショナルとの協議により、船便スケジュールに合わせ、まとまった量で出荷する。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

りんご	現状（令和2年度）	目標年（令和7年度）
輸出額	13,617千円	15,240千円
輸出量	24 t	38 t
輸出先国	香港	香港